

平成28年度 1年間の人権教育の取組〈大胡東小学校〉

1 研究のテーマ

互いを認め合い、伸び伸びと生きる子供の育成
～学校・家庭・地域社会の連携を通して～

2 研究のねらい

互いを認め合い、伸び伸びと生きる子供を育成するために、学校・家庭・地域社会の連携した取組が有効であることを実践を通して明らかにする。

3 研究の内容

本校では昨年度より人権教育推進計画に基づき人権教育を推進するとともに、生活アンケート及びhyper-QUやC&Sの結果を生かして、児童の自己有用感を高めるための指導に取り組んでいる。特に本年度は校内研修においても人権教育との連携を図り、学年ごとに目指す児童像を設定し、授業実践に取り組んだ。

〈平成28年度の重点〉

(1) 人権集中学習（なかよし学習）の充実（期間 11月～12月）

①生活アンケート、hyper-QUの実施

・検査の結果を分析し、児童の悩み等を把握し、指導の充実に努めた。

②人権啓発ビデオ（いじめや仲間はずれなどの内容）の視聴により人権意識の高揚を図る。

③学級活動でクラスの問題点（仲間はずれやいじめなど）について話し合い、人権に対する意識を深めた。特に高学年では、代表委員が中心となって「いじめ」についての学級討論会を行い、「なぜいじめがおきるのか?」「いじめをなくすためにはどうしたらよいか?」について話し合い、考えることができた。

④人権教育の視点を取り入れた研究授業



言葉を使って話せないのは難しいけど、分かってほしい分かってあげたいな。

⑤スポーツ人権教室



プロの技がかっこよかった。チーム全体で勝つことの大切さが分かった。

⑥校長による人権に関する朝礼



自分も友達も大切にしていやな思いをする人がいなくなるとよいな。
一人に一つしかない「いのち」を大切にしよう。

⑦人権標語の作成と掲示

保護者と一緒に児童が考え、「思いやりそのやさしさがバリアフリー」「おはようと元気な声と明るい笑顔」などの標語が出された。出された作品はクラスごとに廊下などに掲示し、たくさんの人の目に

触れるようにした。

⑧ 保健委員会の取組（世界エイズデーに向けて）

レッドリボンしおりを作成して児童に配布し、偏見をもたないことの大切さを指導した。

⑨ 学校保健委員会での保健委員による発表

「ふわふわ言葉で 笑顔いっぱい～しあわせのバケツをいっぱいにして～」
周りの人と心地よい関係を作るために、「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」についての発表を聞き、自分の生活を振り返らせるとともに、感想等を廊下に掲示した。



〈その他人権教育に係わる主な取組〉

(1) 福祉体験

4年生の総合的な学習の時間「福祉についての理解を深めよう」で、社会福祉協議会と連携して体験活動を行い、福祉についての考えを深めた。

① 車椅子の体験を通して



乗っている人が不安にならないように優しくね。

② アイマスクの体験を通して



なにも見えないな。
ぶつからないように、気をつけて。

(2) 児童が主体となって計画し実施した異学年交流

① なかよしタイムを通して



お兄さん、お姉さん
といっしょで楽しいな。

② 児童会活動を通して



大きな声で
「おはようございます！」

③ 中学校と連携したいじめ防止対策会議を通して

(3) 地域、家庭との連携や交流

① 人権週間に人権教育特別号として学校通信を発行するとともに、学年・学級通信にも人権教育の内容を盛り込むなど、保護者や地域の方々に人権教育についての啓発を行った。

② 親子清掃活動や昔あそびを通して保護者や異世代の方との交流を行った。

4 成果と課題

(1) 研究の成果

本年度の校内研修では人権教育との関連を図り、「思いやりの心や自己肯定感を高める」ことを目標にして人権教育の充実に取り組んできた。人権週間等の行事の期間だけでなく、日頃から常に人権を意識して授業を行うとともに、人権を意識して児童と接することにより、互いの良いところに向けたり、自分を肯定的にとらえたりすることができる児童が増えてきた。その結果、自信をもって積極的に学習活動に取り組む様子が見られるようになってきた。また、職員にとっても人権感覚を更に磨ききっかけとなり、児童への指導に役立てることができた。

(2) 今後の課題

学校通信や学年・学級だよりで学校の人権教育についての取組を家庭に知らせるよう努めているが、書面等だけで周知を深めるのは難しいように感じる。児童、保護者、教員、地域の方々など、様々な人が人権教育の大切さを実感できるような取組を更に工夫していく必要がある。